仲西(女子)コラソンU15(男子)頂点

ハンド県中学春季選手権

ハンドボールの第4回大伸杯第53回県中学生春季選手権大会は26日、那覇市の県立武道館で男女決勝までを行った。女子の仲西は神森を41－30で破り、3年ぶり13度目の頂点に立った。男子は琉球コラソンU15が48－23で浦添を圧倒し、初優勝を果たした。

（26日・県立武道館）

【男子】

▽準決勝

琉球コラソンU15 48－23 浦添

神森 24－17 港川

▽決勝

琉球コラソンU15 27－13 神森

▽3位決定戦

浦添 25－23 港川

【女子】

▽準決勝

仲西 41－30 神護ホテルズ・テラス名護U15

神森 26－23 浦護ホテルズ・テラス名護U15

▽決勝

仲西 21－17 神森

▽3位決定戦

護U15 30－19 浦西

仲西、全国8強見せつけ

仲西ー神森　後半、パスを受けドリブルで守備をかわす仲西の石川奈南（中央）＝26日、那覇市の県立武道館（又吉康秀撮影）

仲西が走力で神森を圧倒した。横一線のディフェンスで手堅く守り、全員で走って41点をもぎ取る怒濤（どとう）の攻めを見せ、3月の全国選手権大会ベスト8の実力を見せつけた。

ライバルの神森はバックプレーヤー陣が積極的にカットインを狙ってきたが、3枚目の西穂花と大田千紗がけん制しながら激しく当たり、リズムに乗せなかった。攻撃はCBの石川奈南が相手守備との駆け引きを主導。9メートルラインまで上がってきた守備に対しては石川とRB比嘉優月香がカットインシュートを放ち、カットインを警戒されるとクロスを交えるなどしてLB大田にロングシュートを打たせ、得点を重ねた。

春の全国大会でベスト8に入賞するも見えた課題が走力だった。2メートルのペットボトル2本を頭上に掲げ全速力でコートを往復するラントレを繰り返し、「走り負けしない自信がついた」（石川）。

主将の前田愛梨は「中体連でも優勝し、全国制覇を目指したい」と力を込める。濱里季楽監督は「全国を経験して点が取れるようになった」と選手をたたえつつ、「夏の中体連にはどのチームも実力を上げてくる。さらに力をつけたい」と気を引き締めた。

（高橋夏帆）

コラソンU15、堅守光る

琉球コラソンU－15ー浦添　後半、厳しいチェックで浦添の攻撃を止めるコラソンの糸数陽希（中央）（又吉康秀撮影）

2024年9月の八重瀬町長杯、ことし1月の県中学新人大会に続き、コラソンU15が新チームになって3度目の頂点に立った。得点能力の高さと連係した堅守が光り、浦添に25点差で圧勝した。

古謝虎太郎がカットインシュートなどで8得点、宮里叶一がロングシュート、譜久島一光がステップシュートなどで得点を重ねるなど、得点能力が高い選手が躍動した。譜久島は「守備を強化してきた。練習してきたことが出せた」と頬を緩ませた。

守りは糸数陽希と田港新が高い位置で圧力をかけ、古謝を中心に声掛けして穴を減らした。3月の全国選手権大会後から守りの連係を強化し、糸数は「コーチから教わった相手を押さえる方法が生き、点を抑えられた」と手応えを語った。

チームは30得点以上、10失点以内を目標に掲げている。今大会は連々決勝以外の4試合で40得点を上回った。それでも東江功子監督は「まだ個人技に走ることがある。チームで守り点を取れるよう修正する」と今後を見据えた。

（高橋夏帆）

女子優勝の仲西中

男子優勝の琉球コラソンU－15

ⓒ琉球新報　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します